

令和5年10月4日

議会議長 田 口 彰 一 様

文教厚生委員会
副委員長 岩 城 仁

文教厚生委員会の管外行政視察について（報告）

令和5年6月16日にご承認いただいた文教厚生委員会の管外行政視察を実施いたしましたので、その結果を次のとおり報告いたします。

記

- 1 実施日 令和5年7月27日（木）から令和5年7月28日（金）
- 2 参加者 文教厚生委員 8名
議会事務局職員 1名
- 3 視察場所 埼玉県ときがわ町
埼玉県白岡市
- 4 視察概要 別紙のとおり

文教厚生委員会管外行政視察報告書

埼玉県ときがわ町（都幾川四季彩館の運営について）

ときがわ町では、合併前の都幾川村の施策により掘削した源泉について、温泉スタンドによる販売と併せた有効活用の方法を検討した結果、地域及び都市住民に憩いとやすらぎの場を提供し、地域の振興と発展を図ることを目的に、平成 18 年に温浴施設である都幾川四季彩館の設置が行われた。

古民家を移築して整備された施設は都幾川のほとりにあり、自然豊かな景観が非常に魅力的であった。また、温浴施設のほかにもバーベキュー広場や水遊びができるスペースを併設しており、視察時にも多くの利用客で賑わっていた。

ときがわ町では、多くの観光施設において、地域住民等で組織された地縁団体が指定管理者となり管理運営が行われており、都幾川四季彩館については町商工会内に管理運営委員会を組織し運営が行われていた。

都幾川四季彩館の主な収入源は、日帰り温浴施設とバーベキュー場の売り上げであり、様々な取り組みにより経営の安定化を図っていた。しかし、効果的な対策が講じられないままコロナ禍となり経営状況が悪化したため、視察等による検討を重ね、町の指定管理施設としては初めて、公募により指定管理者を募集することとなった。令和 5 年 7 月から、民間事業者が新たな指定管理者となり施設の運営が行われており、ノウハウを生かした取り組みが期待される。

ときがわ町では、11 ある町有の観光施設が経年劣化・老朽化等の問題を抱えており、十分な予算が確保できない中で、都幾川四季彩館のように計画的・継続的に予算措置を行う施設がある一方、他の施設においては廃止を含めた検討も進められている。施設全体の最適化を図る必要性が改めて感じられた。

当町においては、町民の健康増進・福祉施設として湯～トピアかなみを平成 14 年にオープンしており、平成 22 年度からは指定管理者による運営が行われている。今後の施設運営や維持管理を考える中で、ときがわ町の町有施設に対する取り組みについて、参考となる部分があった。

埼玉県白岡市（部活動の地域移行について）

白岡市では、市内4つの中学校に1,200名を超える生徒が在籍しており、全部で50の部活動が存在している。中学校教職員の働き方改革、持続可能で多様な部活動を根拠に、令和3年度より部活動の地域移行に取り組んでいる。

部活動の地域移行では、原則として中学校の教職員が指導者となる平日の「中学校部活動」と、地域人材が指導者となる休日の「地域部活動（地域クラブ活動）」に分け、地域クラブ活動にあたる部分を段階的に地域移行するため、外部団体に運営の委託を行っている。

委託先団体は、指導者の確保や管理調整、各学校との連絡調整、地域クラブ活動における保険等の手続きや指導者への手当・謝金の支払いなど様々な事務を担うこととなる。白岡市では、令和3年度はPTAのOBを母体とした組織に委託を行っていたが、将来的な規模の拡大等を考えると負担が大きいため、令和4年度からは民間企業に運営を委託している。

指導者の数や質の確保、各部活動とのマッチング、研修制度や評価システムの構築、施設や用具の管理、大会やコンクールのあり方の再検討、生徒の受益者負担の発生など、地域移行に係る課題は多くあり、中学校部活動に対し様々な考えを持つ人々がいる中で、移行を推し進めていく難しさが感じられた。

また、自治体としても地域移行に係る業務量は非常に多く、本年度は職員数を増員して対応しているとのことであった。

しかしながら、地域移行を進めることで、生徒が専門的な指導を受けられる環境の整備や教職員の負担軽減に繋がっており、また、白岡市では学校部活動に無い新たな活動として、合同部活動という形でダンス部、プログラミング部が新設され、生徒の様々なニーズに応える活動が実現されている。

本町においても、部活動の地域移行を進めるにあたり、部活動の意義を考え生徒の健全育成の場となるよう、環境整備に努めていくことが必要である。